

日本学術会議 北海道地区会議ニュース

発行 日本学術会議北海道地区会議

No. 52
2022-3

「代表幹事交代と近況の報告」

第25期北海道地区会議代表幹事

(函館工業高等専門学校長, 北海道大学名誉教授)

但野 茂

日本学術会議北海道地区会議の代表幹事を務めておられた吉岡充弘先生（北海道大学大学院医学研究院教授）が令和3年9月7日にご逝去されました。ここに先生の生前のご功績とご貢献を偲び、謹んで哀悼の意を表します。吉岡先生は、北海道大学大学院医学研究院院長・医学院長・医学部長、脳科学研究教育センター長、等の大学運営の要職を務められ、日本薬理学会理事長、日本神経精神薬理学会理事、等、学術面で我が国における薬理学や関連領域を先導し、その発展に多大な貢献をされてきました。日本学術会議では、第24期、第25期の第二部会員として、基礎医学委員会、科学者委員会、等でご活躍されておりました。また北海道交響楽団のフルート奏者としての一面もお持ちでした。先生の突然の逝去に接し、大変残念な思いで一杯です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

吉岡先生の後を受け、令和3年9月より北海道地区会議代表幹事を拝命いたしました。大変微力ではありますが、吉岡先生の日本学術会議への思いと意思を引継ぎ、北海道地区会議の運営と発展に務めて参りたいと思います。ご協力とご支援を宜しくお願い致します。

さて、日本学術会議第25期は、ご存知のように、令和2年10月の第181回総会で梶田隆章会長の新体制がスタートしましたが、新会員105名のうち6名が総理大臣から任命されないという、いわゆる任命問題が生じました。日本学術会議としては事態解決のため、総会で総理大臣宛の要望書を決議し、梶田

会長が就任挨拶を兼ね直接総理に要望書を説明するなど、その後幹事会を中心に政府とは絶え間ない交渉が続けられています。任命問題が報道等で大きく取り上げられましたが、各方面から日本学術会議自体へのさまざまな意見も多く寄せられました。中には事実と異なる情報が一人歩きすることもありました。そのことを重く受け止め、事実を正確に伝える努力も併せて重ねてきました。2週間毎に記者会見が開かれ、日本学術会議の活動と運営の資料が公開されました。政府からは日本学術会議の「よりよいあり方」について未来志向の検討が強く求められたこともあり、日本学術会議みずから活動と運営を検証し、より良くその役割を果たしていくことが議論されています。その内容が第182回総会（令和3年4月）で取りまとめた「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」です。(1) 国際活動の強化, (2) 科学的助言機能の強化, (3) 対話を通じた情報発信力の強化, (4) 会員選考プロセスの見直し、等の改革課題が公表されています。第183回総会（令和3年12月）には検討の進捗状況が示されました。その内の概要をお知らせします。なお、総会の冒頭では、新内閣の小林鷹之内閣府特命担当大臣（科学技術政策）より挨拶があり、政府と日本学術会議との未来志向の関係性の重要性について述べられています。

「科学的助言機能の見直し、会則改正」については、科学者の代表機関として、人文・社会科学、生命科学、理学・工学の学術全分野にまたがる分野横断的な観点から、中長期的視点・俯瞰的視点に立ち、説得力のある科学的助言を目的として、「科学的助言等対応委員会」を設置し、課題設定から査読・公表まで科学的助言活動の全体の把握・分科会等の連携促進を図ること、「提言」を委員会・分科会名での発出から学術会議名での発出に変更すること、委員会・分科会名による意思の表出として新たに「見解」を新設すること、「提言」や「見解」として満たすべき事項を明確化すること、課題設定や科学的助言

の作成過程における意見交換を実施（学協会、政策関係者、産業界、NGO・NPO等）すること、などです。

「会員選考プロセスの見直し」については、新たな選考方針としては、求められる会員像、次期に取り組む事項等の明示、外部有識者をはじめとする第三者の意見の聴取、などがあります。会員候補者に関する情報提供依頼先の拡大（学協会から大学関係団体、産業界、政策関係機関等への拡大）や部をこえた選考枠の拡大（学際分野や新たな学術分野からの選考）、選考過程、研究又は業績の内容、選考理由等の公表、各部会員数の柔軟な対応、「学術分野を代表する」ことの意味、部の構成の在り方等につ

いても検討することとなっています。

その後の会員任命問題ですが、令和4年1月13日、岸田総理大臣と梶田会長の面談がありました。要望書を提出し、学術会議の意義と発展について説明されました。今後政府との建設的な関係構築への対話は継続され、官房長官が担当とのことです。

現在の日本学術会議活動状況については、カーボンニュートラル、パンデミックと社会、研究力強化、国際戦略等を総合的・中長期的な重要課題とし、連絡会議、課題別委員会、国際委員会等、さまざまな面で審議が行われています。是非ホームページをご覧ください。

(参考) 日本学術会議ホームページ

<https://www.scj.go.jp>

学術講演会開催報告

北海道地区会議では、市民公開の講演会を毎年開催しています。令和3年度は、11月3日（水・祝）にオンラインにて開催しました。

以下に当日の講演内容を報告します。

「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に向けて—記録・国際協力・情報技術—」

日時：令和3年11月3日（水・祝）

場所：北海道大学学術交流会館（札幌市）
（オンラインでの開催）

報告：日本学術会議第一部会員（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

宇山 智彦

日本学術会議第三部会員（公立はこだて未来大学教授）

大場 みち子

新型コロナウイルス感染症は国内社会・国際社会のさまざまな問題を浮き彫りにし、過去から未来に至る人類社会の変容と課題を考える機会となりました。それらの課題の中で特に、感染症に関する経験を未来に伝えるための記録作成・保存、世界保健機関（WHO）の活動など国際協力のあり方、感染症

への有効な対応や行動変容を含むポストコロナ時代の社会課題解決に資する情報技術を取り上げて、これからの社会について考えるためにこのシンポジウムを企画しました。

感染症流行が続く状況のため、会場に多数の参加者が集まってシンポジウムを開催することは難しく、北海道地区会議としては昨年が続いて二度目のオンラインシステムにて、会場には少数の関係者のみが集まるハイブリッド形式でシンポジウムを開催しました。

日本学術会議 北海道地区会議 学術講演会

記録・国際協力・情報技術

コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に向けて

日時：令和3年11月3日(水・祝) 13:30~17:00

プログラム

- 【開会挨拶】
- 【講演】 梶田 隆夫 (日本学術会議理事長、東京理科大学学長) 「感染症をめぐる資料をどう扱うか？」
- 【記録】 佐代 隆子 (北海道大学学術情報) 「新型コロナウイルスとグローバルヘルスガバナンスの課題」
- 【報告】 宇山 智彦 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授) 「ポストコロナ社会に向けて—一人工知能前線と応用事例—」
- 【報告】 大場 みち子 (公立はこだて未来大学教授) 「ポストコロナ社会の行動様式を革新するサイバネティックアバターとは？—ムーンショット目標1がめざす未来社会—」
- 【閉会挨拶】
- 【報告進行】 大場みち子 (北海道学術会議第三部会員、公立はこだて未来大学教授)

お問い合わせ先

日本学術会議 北海道地区会議事務局
〒060-0815 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号
Tel: 011-706-2155/2166 / Fax: 011-706-4873
e-mail: sushin@genera.hokudai.ac.jp

司会進行：大場 みち子

(日本学術会議第三部会員，公立ほこだて未来大学教授)

(1) 開会挨拶

13：30～13：40 菱田 公一

(日本学術会議第三部会員・副会長，明治大学研究・知財戦略機構特任教授)

13：40～13：45 但野 茂

(第25期北海道地区会議運営協議会代表幹事，日本学術会議第三部会員，函館工業高等専門学校長)

(2) 講演

13：45～14：15「感染症をめぐる資料をどう残すか？」

飯島 渉 (日本学術会議連携会員，青山学院大学文学部教授)

14：15～14：45「新型コロナとグローバルヘルスガバナンスの課題」

詫摩 佳代 (東京都立大学法学部教授)

15：00～15：30「ポストコロナ社会に向けて 一人工知能最前線と応用事例一」

川村 秀憲 (北海道大学大学院情報科学研究院教授)

15：30～16：00「ポストコロナ社会の行動様式を変革するサイバネティックアバターとは？—ムーンショット目標1がめざす未来社会—」

萩田 紀博 (日本学術会議第三部会員，大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス学科教授)

(3) 総合討論

16：00～16：55 座長 宇山 智彦

(日本学術会議第一部会員，北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

パネリスト：飯島 渉，川村 秀憲，萩田 紀博，宮崎 千穂(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター非常勤研究員)

(4) 閉会挨拶

16：55～17：00 西村 正治

(日本学術会議第三部会員，北海道呼吸器疾患研究

所・理事長／豊水総合メディカルクリニック・医師)

日本学術会議副会長の菱田先生にご挨拶をいただいた後，但野代表幹事にご挨拶をいただき，講演会が開始されました。



開会挨拶をされる菱田日本学術会議副会長

最初の講演では，コロナ・ポストコロナ時代の社会課題解決の前提となる，「記録」の問題を取り上げました。日本やフィリピンなどで感染症をめぐる資料の整理・保存・修復に取り組んでこられた飯島先生に，医療社会史の観点から，感染症制圧のための苦勞を記録することが将来の流行への対策にとっていかに重要性であるかについてお話しいただきました。感染症対策の効果を左右するのは社会の特徴や文化であること，コロナに関しても対策への社会・個人の対応を示す資料を残す必要があること，歴史学と情報工学の対話や国際協力も必要であることなど，大変含蓄の深いお話でした。



講演をする飯島青山学院大学教授

2つ目の講演では，国際政治学者の詫摩先生が，19世紀以来，国際保健協力が政治対立を乗り越えて

行われてきた歴史を振り返ったうえで、グローバル化時代には感染症が広範囲な領域に影響し、対応が政治化しやすく、増加するアクター間の調整が難しくなっていると指摘しました。そして、ポストコロナの保健協力においては、米中対立の行方とWHOなど国際機構の信頼回復が鍵であり、国、地域、グローバルの重層的な保健ガバナンスを構築するために日本も役割を果たすべきであると述べられました。



講演をする詫摩東京都立大学教授
(事前収録での参加)

3つ目の講演では、世界的に技術競争が活発化し、指数関数的に技術発展している現状として、人工知能(AI)の最前線の状況と応用事例、そして、さまざまな技術の組み合わせによって破壊的なイノベーションが生まれて、瞬く間に世界中に広がっている現状を説明いただきました。ポストコロナ社会に向けてのヒントとして、日本の産業構造を考え直し、持続的な発展のためには、日本の社会システムそのもののデザインをした上でデジタル化を実現していくことが必要であること、これらを実現するには、組織のトップの決断がこれまで以上に重要になってくることなどを、多数の企業とAIを活用した課題解決を図っている川村先生にお話しいただきました。



講演をする川村北海道大学教授

最後に、リアル空間で三密を避け、感染症を防ぐためには医学・薬学的な方法とともに、今後、益々重要になってくる情報学(特に、生存情報学)の未来に向けた取り組みを取り上げました。2050年に向けたムーンショット目標1で研究開発するサイバネティック・アバターは身代わりロボットです。アバターはどこでも行けるので、人間の活動範囲の制限がなくなります。2050年のサイバネティック・アバターの実現イメージや利用者タイプ、3つの研究開発プロジェクト、SDGsへの取り組み、ポストコロナ社会の行動様式の変化などをProgram Directorの萩田先生にお話しいただきました。



講演をする萩田大阪芸術大学教授
(オンラインでの参加)

講演の後は、宇山日本学術会議第一部会員を座長として総合討論に移りました。まず日露関係史における伝染病の問題を研究している宮崎氏から、伝染病に関する情報収集や国家主権との関わり、差別・偏見などについて、各講演と関連させながら問題提起していただきました。講演者の間では、個人情報の保護が確立している先進国で伝染病に関する情報が集めにくいという問題や、AIはコロナの歴史を書けるのかという話題など、専門分野を越えた議論がなされました。他の参加者からも、興味深い意見や質問をいただきました。



総合討論

今回のシンポジウムには75名の参加者があり、アンケートでは講演者の幅の広さを評価する声をいただきました。お忙しい中、ご講演をいただいた先生

方、ご参加をいただいた皆様に、心からの御礼を申し上げます。

令和3年度実施の地区事業（実施分）

○学術講演会

令和3年11月3日（水・祝）

北海道大学学术交流会館（札幌市）

「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に向けて—記録・国際協力・情報技術—」

参加者75名

概要

◇司会 大場 みち子

（日本学術会議第三部会員，公立ほこだて未来大学教授）

◇挨拶

菱田 公一

（日本学術会議第三部会員・副会長，明治大学研究・知財戦略機構特任教授）

俣野 茂

（日本学術会議第25期北海道地区会議運営協議会代表幹事，日本学術会議第三部会員，函館工業高等専門学校長）

◇講演

「感染症をめぐる資料をどう残すか？」

日本学術会議連携会員，青山学院大学文学部教授
飯島 渉

「新型コロナとグローバルヘルスガバナンスの課題」

東京都立大学法学部教授

詫摩 佳代

※事前収録によるビデオ講演

「ポストコロナ社会に向けて—人工知能最前線と応用事例—」

北海道大学大学院情報科学研究科教授

川村 秀憲

「ポストコロナ社会の行動様式を変革するサイバネティックアバターとは？」

—ムーンショット目標1がめざす未来社会—」

日本学術会議第三部会員，大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス学科教授

萩田 紀博

※オンライン出演

◇総合討論

座長 宇山 智彦

（日本学術会議第一部会員，北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

◇挨拶 西村 正治

（日本学術会議第三部会員，北海道呼吸器疾患研究所・理事長／豊水総合メディカルクリニック・医師）

○北海道地区会議サイエンスカフェ

令和4年3月2日（水）

三省堂書店札幌店ブックス&カフェ UCC

「気づける不思議，見逃す仕組み～認知心理学から広告を読み解く～」

講師 河原 純一郎

（日本学術会議連携会員，北海道大学大学院文学研究院教授）

○北海道地区会議運営協議会

①令和3年6月2日（水）（web開催）

議題1 令和3年度日本学術会議北海道地区会議学術講演会について

議題2 日本学術会議サイエンスカフェの実施について

②令和3年9月14日（火）（web開催）

議題1 北海道地区代表幹事について

議題2 日本学術会議北海道地区会議学術講演会

「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決に向けて—記録・国際協力・情報技術—」の開催について

議題3 日本学術会議サイエンスカフェの実施について

③令和4年3月1日(火)(文書開催)

議題1 令和4年度学術講演会の開催について

議題2 令和4年度日本学術会議北海道地区会議事業計画(案)について

報告1 令和3年度日本学術会議北海道地区会議事業実施報告について

○北海道地区会議科学者との懇談会

令和3年11月3日(水・祝)

北海道大学学術交流会館(札幌市)

※ 菱田 副会長を囲んで

第25期地区会議構成員

第25期北海道地区会議構成員は会員および連携会員で構成されている。

[会員]

石塚真由美 第二部会(北海道大学大学院獣医学研究院・教授)

宇山 智彦 第一部会(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授)

大野 由夏 第一部会(北海道大学大学院経済学研究院・教授)

大場みち子 第三部会(公立はこだて未来大学・教授)

俣野 茂 第三部会(函館工業高等専門学校・学校長)

西村 正治 第二部会(北海道呼吸器疾患研究所・理事長/豊水総合メディカルクリニック・医師)

渡辺 雅彦 第二部会(北海道大学大学院医学研究院・教授)

[連携会員]

有村 博紀 北海道大学大学院情報科学研究院・教授

石井 哲也 北海道大学安全衛生本部・教授

石田 晋 北海道大学大学院医学研究院・教授

上田 一郎 北海道大学名誉教授

上田 佳代 北海道大学大学院医学研究院・教授

白杵 勲 札幌学院大学人文学部人間科学科・教授

内山 幸子 東海大学国際文化学部デザイン文化学科・教授

大野 宗一 北海道大学大学院工学研究院・教授

大場 雄介 北海道大学大学院医学研究院・教授

岡部 聡 北海道大学大学院工学研究院・教授

尾崎 一郎 北海道大学大学院法学研究科・教授

笠井 久会 北海道大学大学院水産科学研究院・准教授

片桐 由喜 小樽商科大学・教授

河原純一郎 北海道大学大学院文学研究院・教授

菊地 優 北海道大学大学院工学研究院・教授

北 裕幸 北海道大学大学院情報科学研究院・教授

小柴 正則 北海道大学名誉教授

齊藤 正彰 北海道大学大学院法学研究科・教授

櫻井 晃洋 札幌医科大学医学部遺伝医学・教授

笹木 敬司 北海道大学電子科学研究所・教授

佐藤 典宏 北海道大学病院・病院長補佐/臨床研究開発センター・センター長, 教授

澤村 正也 北海道大学特別教授, 大学院理学研究院・教授, 安全衛生本部・副本部長

相馬 雅代 北海道大学大学院理学研究院・准教授

都木 靖彰 北海道大学大学院水産科学研究院・教授

高橋 素子 札幌医科大学医学部医化学講座・教授

武富 紹信 北海道大学大学院医学研究院・教授

田高 悦子 北海道大学大学院保健科学研究院・教授

玉腰 暁子 北海道大学大学院医学研究院・教授

- 辻 康夫 北海道大学法学研究科・教授
中小路久美代 公立ほこだて未来大学・教授
長里千香子 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・教授
名和 豊春 元北海道大学総長
西野 吉則 北海道大学電子科学研究所・教授
庭山 聡美 室蘭工業大学大学院工学研究科・教授
野口 伸 北海道大学大学院農学研究院・副研究院長, 教授
橋本 雄一 北海道大学大学院文学研究院・教授
長谷山美紀 北海道大学大学院情報科学研究院・教授
波多野隆介 北海道大学名誉教授
羽山 広文 北海道大学名誉教授
樋田 京子 北海道大学大学院歯学研究院・教授
水見山幸夫 北海道教育大学・名誉教授
藤田 修 北海道大学大学院工学研究院・教授
船水 尚行 室蘭工業大学理事・副学長
古屋 正人 北海道大学大学院理学研究院・教授
寶金 清博 北海道大学総長
本間 研一 北海道大学名誉教授
本間 さと 特定医療法人社団慶愛会札幌花園病院睡眠医療センター・センター長
真木 太一 北海道大学大学院農学研究院・研究員, 九州大学・名誉教授
三澤 弘明 北海道大学電子科学研究所・特任教授
南 雅文 北海道大学大学院薬学研究院・教授
美馬のゆり 公立ほこだて未来大学システム情報科学部・教授
村越 敬 北海道大学大学院理学研究院・教授
森本 淳子 北海道大学大学院農学研究院・准教授
山口 佳三 北海道大学名誉教授
山下 啓子 北海道大学病院・教授
山下 竜一 北海道大学大学院法学研究科・教授

(氏名は五十音順)

吉岡 充弘 前本地区代表幹事におかれては病氣療養中のところ令和3年9月7日(火)に御逝去されました。心から哀悼の意を表するとともに謹んでお知らせいたします。

日本学術会議北海道地区会議事務局
北海道大学研究推進部研究振興企画課
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
電話 (011) 706-2155 FAX (011) 706-4873

